

HuMA News Letter

HuMA - スリランカ医療支援活動が完了。

1月から開始されていたHuMA - スリランカ医療支援活動は、3月26日に被災地病院への心電計の供与および防虫剤蚊帳の配布もって、無事完了しました。

2004年12月26日にインドネシア・スマトラ島沖で発生した地震・津波災害は、インド洋周辺諸国で十数万人の死者が発生した史上まれに見ぬ世界規模の大災害でした。日本からも直ちに国際緊急援助隊医療チーム(JMTDR)が被災地に派遣され、(HuMA会員も26名が参加しました)急性期の医療支援活動に携わりました。

今回HuMAでは、この大災害に対して、急性期以降の現地医療ニーズの変化に柔軟に対応し、また地域の復旧・復興への橋渡しを手伝うため、ジャパンプラットフォームからの資金供与を受けて、1月13日からスリランカ・アンパーラ県に災害人道医療支援チームを派遣しました。

活動内容・経過

1月13日から3月26日まで、延べ13名の会員が参加しました。活動拠点は主に、スリランカの東海岸、アンパーラ県のカルムナイ地区でした。(右図参照・印)

診療活動について

1月半ばにおける現地状況は、倒壊家屋がそのまま残存し、被災者らは主に小学校をシェルターとして居住していました。衛生環境は劣悪で、ハエ・蚊が密集し、雨季の終わり目で至る所に水溜まりを認めました。下水環境も悪く、一部のどぶ川やため池では悪臭が漂っていました。行政による公衆衛生活動も遅れている模様。急性期を過ぎ傷病者は重症こそ少ないが、カルムナイ地区に残存する主要医療機関は数も少なく外来患者であふれている様子でした。急性期医療支援チームが撤収してゆくなかで、HuMAは当地区でJMTDRが設営していた仮設診療所を、アメリカのNGO North West Medical Team と共同で引き継ぎ、診療継続することにしました。

診療活動実績

1月17日より診療活動を開始し、2月8日に活動を概ね終了しましたが、延べ11日間の診療で外来患者延べ総数は700名弱でした。重症者は少なく、外来患者の2割以上は創傷治療の患者でしたが、その他皮膚疾患・皮膚感染症の患者が多く存在したことが特徴的で、掻痒の訴えが多かったです。マラリアやコレラなど災害亜急性期から蔓延する感染症患者はほとんど存在せず、当地区での発生は皆無という訳ではなかったですが、懸念されていたアウトブレイクは幸いにも発生しませんでした。

医療技術供与について

NWMT / HuMA で運営した診療所における外傷・創治療患者を現地医療機関に引き継ぐため、また、創傷ケアに対する現地医療水準が低いので、これに対する医療レベルを向上させるために、当地区中核病院の Wound Care Department において、創傷ケアの技術指導を行いました。これにより、急性期から継続加療されてきた創傷患者たちを、スムーズに現地病院へ引き継ぐ橋渡しとして寄与できました。

疫学調査

診療活動が概ね終了した2月中旬に、疫学調査を実施しました。当地区の海岸沿い被災地の家庭を個別訪問し、あらかじめ作成した問診票を用いて聞き取り調査を行いました。



スリランカ - 地図



倒壊家屋の状況

スリランカ津波災害緊急医療支援活動寄付金の御礼

スリランカ津波災害緊急医療支援活動への募金に御協力頂きまして誠にありがとうございました。1月～3月末日迄に合計 ¥2,843,336の御寄付を賜りました。皆様の御支援に心より御礼申し上げます。

活動内容・経過 (続き)

心電計供与および蚊帳の配布

約2ヶ月間の診療活動の間、現地病院を視察し、また保健省、行政官から聞き取りを行い、現地医療体制の復旧状況を確認しました。海岸沿いの多くの病院は津波により倒壊し、その後仮設病院で診療再開し、医療体制は徐々に復旧に向かっていました。現地では医薬品や衛生材料は、アンパーラ県の都市部で容易に購入でき、物資の不足を感じませんでしたが、手動血圧計や吸入器、心電計、滅菌器など津波で失った医療機器類の補充は、政府からの支援も遅れ入手困難な状況であり、現地医療現場では不足していました。

また行政による公衆衛生活動も、蚊帳配布によるマラリア予防対策が開始されましたが、実際に地域に配布されるまでには、まだまだ時間を要する模様で、当地区では発災2ヶ月を経過してもまだ蚊帳は配布されませんでした。

これらのことより、HuMAは医療復興支援として、医療機器(心電計)の提供と蚊帳を病院に配布することにし、3月26日までに22ヶ所の病院を巡り、6つの心電計と3200張の蚊帳を、ニーズを認める医療施設に供与しました。今回配布した蚊帳は防虫剤蚊帳(オリセツネット)で、住友化学株式会社から提供して頂きました。

今回のHuMAの活動は、自然災害における急性期のみならず、それ以降の災害医療支援活動の可能性について、新しい経験を積むことができたといえます。



海岸沿いの倒壊した病院



病院内部



診療所活動における診療風景



被災病院への心電計の供与



医療機関への蚊帳の配布

第14回世界災害救急医学会(WADEM)が開催されました。(2005年5月16日～5月20日)

スコットランドのエジンバラで開催された第14回世界災害救急医学会では、HuMA会員らの積極的な演題発表がありました。兵庫県災害医療センター顧問の鶴飼先生(HuMA理事長)をはじめ、浅井先生、小澤先生、小井土先生、中田さん、合計5名のHuMA会員が国際学会の場に積極的に参加・発表しました。

平成17年度 HuMA総会を開催します。(2005年6月25日)

平成17年6月25日(土)午後3時30分より、兵庫県災害医療センター(兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-3-1)において、平成17年度HuMA総会を開催致します。是非とも皆さまのご来場頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

国際災害看護研修会を開催します。(2005年7月15日～7月17日)

日本医科大学同窓会館(東京都文京区向丘2-20-7)において、平成17年度HuMA - 国際災害看護研修会を開催します。詳しくはHuMAホームページをご覧ください。また、申し込み・問い合わせは下記メールアドレスまでお願いします。

2005年3月末現在
ただいまの会員数:
223名(内賛助会員40名)

発行 = 特定非営利活動法人災害人道医療支援会
連絡先 = サポート事務局 〒111-0051東京都台東区蔵前1-3-11大東紙ビル2F
TEL/FAX: 03-3866-8988 Email: info@huma.or.jp ホームページhttp://www.huma.or.jp